

このまま「今秋着工」でいいのでしょうか？

リニアを
考える

県民ネットワークづくりを！

中津川

県駅予定地の坂本地域では「住民の会」が山梨実験線を視察。その結果を現地の人の生の声も含めて「ニュース」に載せ6700枚配布。「問題点がよくわかる」と好評です。「会」では住民への情報提供を強めようと奮闘中。

可児市

東海環状道のトンネル掘削で黄鉄鉱が出て、硫酸による環境汚染を経験している住民から「被害を再現させるな」の声多数。党支部中心に6月15日には「リニア問題を考える集い」を計画中。

国会では

辰巳孝太郎参院議員がリニア建設の「残土」問題で国交省を追及。「発生残土の行き先、処分先」として決まっているのは全体のわずか22%しかなく「大半が決まっていない」ことを認めさせ「着工認可すべきでない」と迫りました。太田大臣は「しっかり検証する」と答いました。

リニアは人類が未経験の超高速列車。だからこそ未知の不安、疑問がいっぱいなのに、JRはまともに答えず「とにかく今秋着工」へと急ぎに急いでいます。「これでいいのか」と、リニアに将来の「夢」を託す人々からも疑問の声が…。大事なことは、この地域での人々の安心の暮らしが、しっかりと守られること。そのためには、リニアそのものへの立場・考え方の違いを超えて力を合わせることが大事と「リニアを考える県民ネットワーク（準）」が発足。参加の呼びかけを、沿線予定地域を初め県民の中に思い切って広げようと、とりくみが始まりました。準備会で呼びかけ人を募り近く「参加呼びかけ」を発表。7月には「結成総会」を中津川市内で開く予定です。

政府交渉を準備

国会でほとんど審議されてもいないのに「今秋着工」を許していいのか。この声を政府にぶつけようと、衆院東海ブロック事務所を軸に政府交渉が準備されています。関係各県の要望を持ち寄って、政府に直接届けるとりくみ。中津川市坂本の「住民の会」では、独自に地元要望をまとめ、独自に車を出して「みんなで行こう」と、とりくみを急いでいます。

リニア
ここが
大問題

『微^{わずか}』なんてトンデモない!!

微気圧波問題

ここには住めない
と悲鳴深刻

山梨実験線でも実証

リニアが超高速でトンネルに突入すると圧縮波が発生。それが圧力波となり出口から放射され衝撃音を発するという問題。山梨実験線の視察でも「この音がすごい」と口々に訴えられました。

恵那地域リニア研究会の庄司善哉氏（秋

田大名誉教授）の研究では、この微気圧波の衝撃音の最大は120デシベル前後にもなり、それはジェット戦闘機の爆音を50mの近距離で聞くのと同程度の「耐え難さ」になると言います。それがリニア開業時、1時間に5往復で10回、1日16時間運行で160回も響き渡ことになります。「これでは地域に住めなくなる」。この声をあげていくことが必要です。